T2Kシンポジウム

岩下武史
京都大学学術情報メディアセンター

世に連携は数あれど・・・

~~三大~~寄れば文殊の知恵？

三大学

OR

~~船頭多くして船、山にのぼる？~~

T2Kの連携はここが違うぞ（連携基盤）

- 共通仕様（オープンスーパーコンピュータ）によるスパコンの導入
- Sympathy
  - 相手の課題は自分の課題
  - 対岸の火事というわけにはいかない。
- Friendship
  - 仕様共通化の過程で、お互いをよく知りあっている。
  - T2K-research MLでのメールは800通を超えている。
- Diversity
  - 各教員の得意分野がアーキテクチャからアプリ、ハードからソフトまで多岐にわたっている。

具体的な研究連携

- 世界をリードするComputer Scienceの研究
- 世界をリードするComputational Scienceの研究

世界をリードするCOMPUTER SCIENCEの研究

- 標準化への期待、オープン化
  - 並列処理言語、スクリプト、ツール、ライブラリ
  - ユーザとの接点
    - ニーズの的確な把握
  - ある程度のマスを持つユーザ
  - リソース、テストベットの提供
    - 研究成果の展開が容易
    - 従来は他アーキテクチャ、OSへのポーティングなどに時間を取られ、実質的な研究の進展が妨げられた結果研究速度に問題生じていた　　・・・気がする

世界をリードするCOMPUTATIONAL SCIENCEの研究

- T2Kに属する研究者が幅広い体制でComputational Scienceの研究者を支援
  - 自分のセンターでは解決できなくても他のセンターにはわかる人がいるかもしれない。
- T2Kが異分野交流のリエゾンとして機能
  - リソースとナリッジの提供が、Computational Science の一中心として機能　すればいいな・・・
- 新しいリサーチモデルの提案
  - 筑波大学計算科学センターのCS研究者と応用分野の研究者の連携